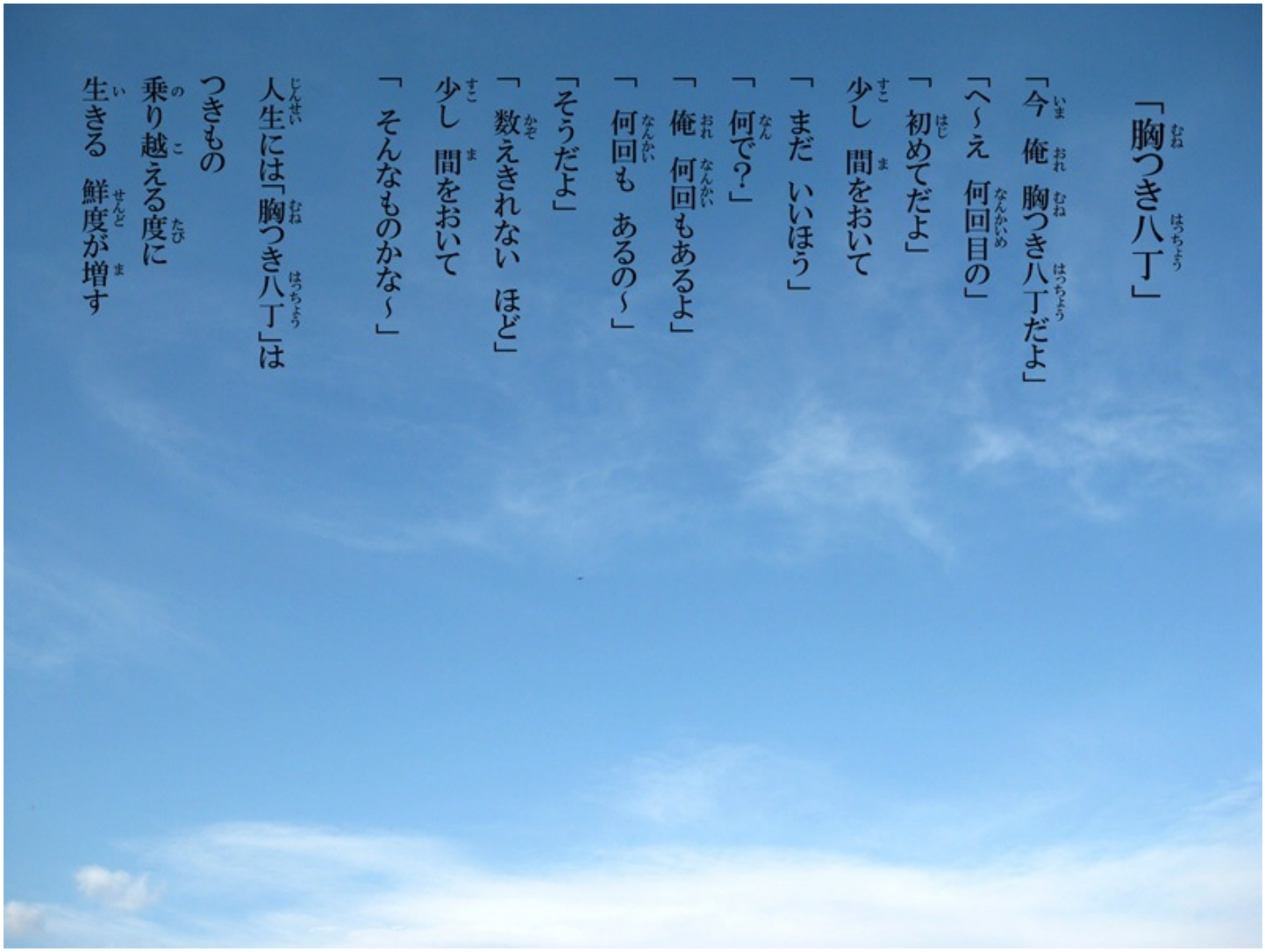
せいけん詩集

第六篇

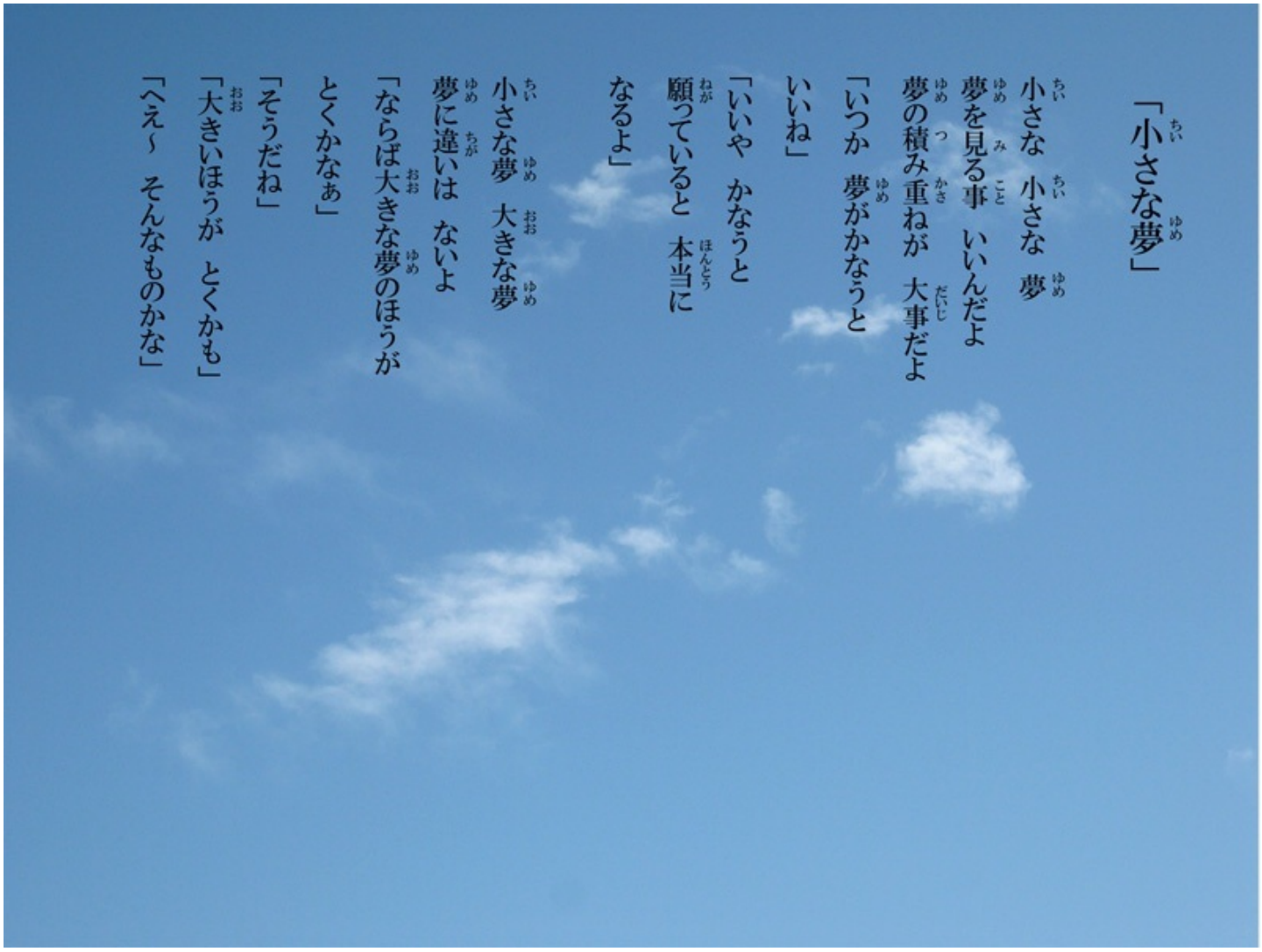
作：近藤せいけん



「胸つき八丁」

「今　俺　胸つき八丁だよ」
「へ～え　何回目の」
「　初めてだよ」
少し　間をおいて
「　まだ　いいほう」
「　何で？」
「　俺　何回もあるよ」
「　何回も　あるの～」
「そうだよ」
「　数えきれない　ほど」
少し　間をおいて
「　そんなものかな～」

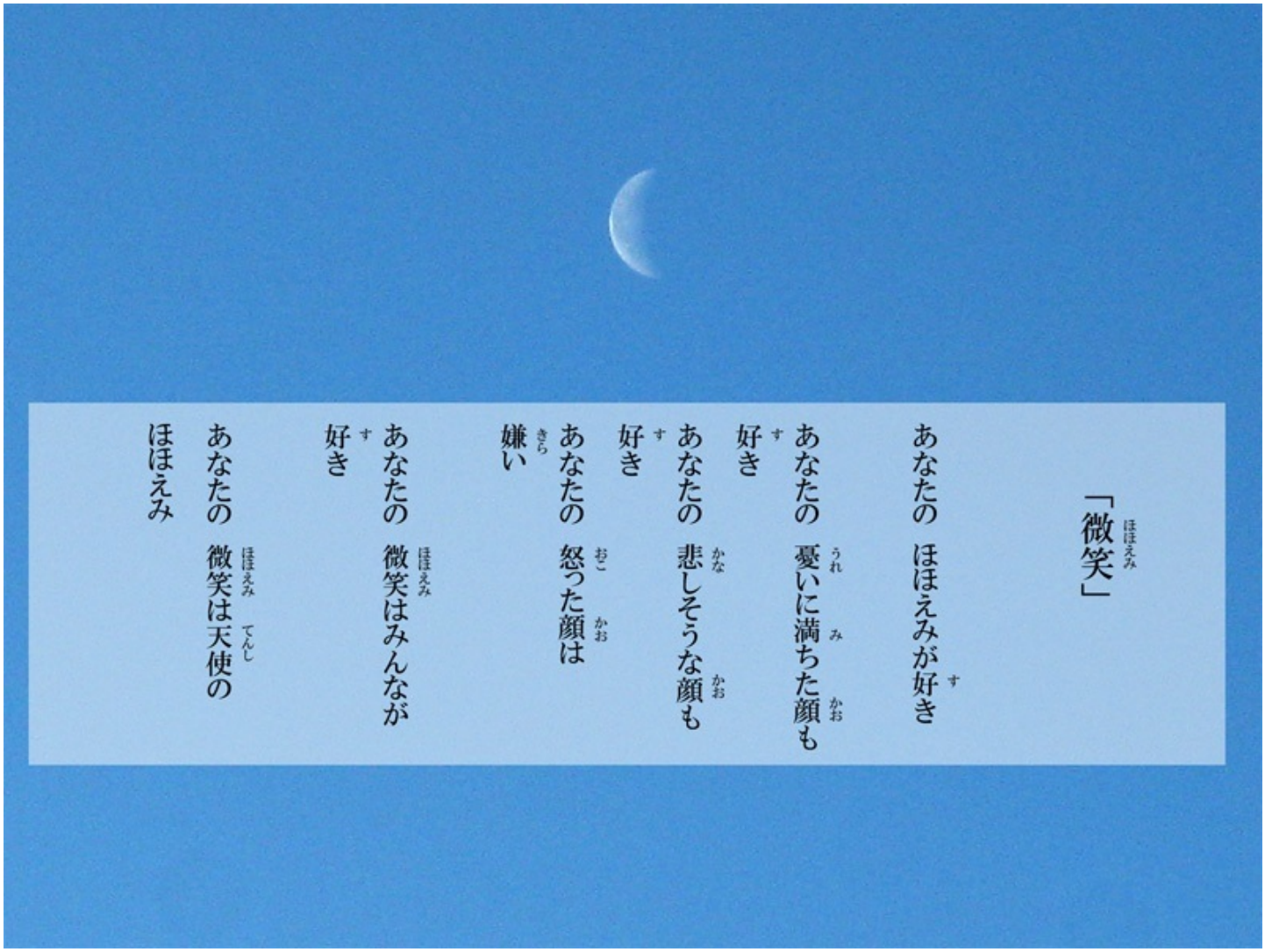
人生には「胸つき八丁」は
つきもの
乗り越える度に
生きる　鮮度が増す



「小さな夢」

小さな　小さな　夢
夢を見る事　いいんだよ
夢の積み重ねが　大事だよ
「いつか　夢がかなうと
いいね」
「いいや　かなうと
願っていると　本当に
なるよ」

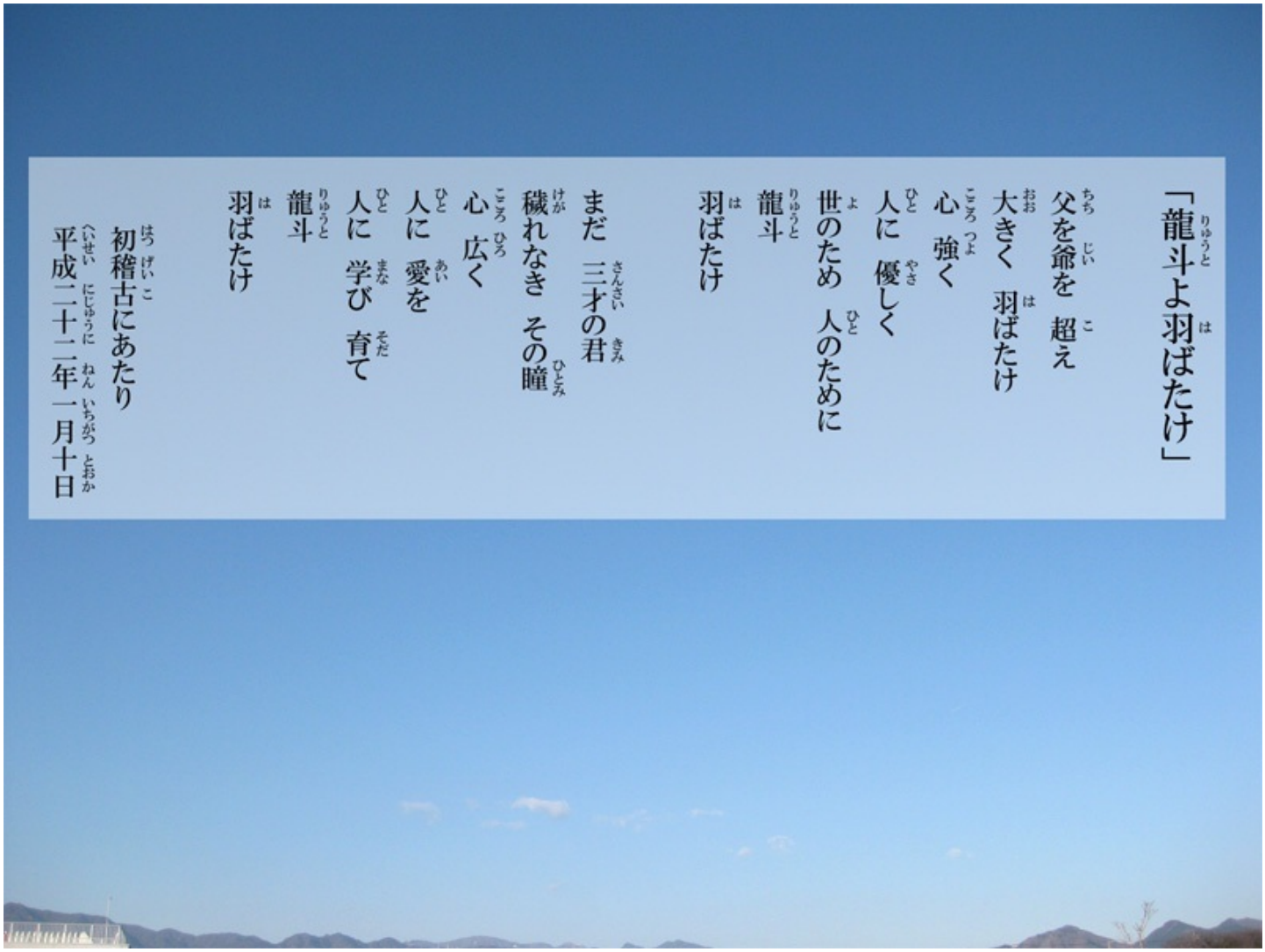
小さな夢　大きな夢
夢に違いは　ないよ
「ならば大きな夢のほうが
とくかなぁ」
「そうだね」
「大きいほうが　とくかも」
「へえ～　そんなものかな」



「微笑（ほほえみ）」

あなたの　ほほえみが好（す）き
あなたの　憂（うれ）いに満（み）ちた顔（かお）も
好（す）き
あなたの　悲（かな）しそうな顔（かお）も
好（す）き
あなたの　怒（おこ）った顔（かお）は
嫌（きら）い

あなたの　微笑（ほほえみ）はみんなが
好（す）き
あなたの　微笑（ほほえみ）は天使（てんし）の
ほほえみ



「龍斗よ羽ばたけ」

父を爺を　超え
大きく　羽ばたけ
心　強く
人に　優しく
世のため　人のために
龍斗
羽ばたけ

まだ　三才の君
穢れなき　その瞳
心　広く
人に　愛を
人に　学び　育て
龍斗
羽ばたけ

初稽古にあたり
平成二十二年一月十日